オーディオ実験室収載

カートリッジの比較試聴(3)
―条件変更後の現状確認(2)―

１．はじめに

前報(2)では条件変更後の現状確認ということでタップリベラメンテとフィルタライザーの導入や設置場所やアース周りの変更後の音質の確認を行いましたが、古くから使っているトランスの Ortofon STA-6600L が不調になってしまって使用しませんでした。ちょうど試聴会で河口無線に行った際、新製品の Ortofon ST-7 を見つけて購入を決めましたので、これを使用して追加の試聴を行いました。

２．条件変更後の現状確認の試聴条件

Ortofon ST-7 は ST-3 や ST-5 の流れを組んだものですが、メーカー発表資料では、適合カートリッジインピーダンスが従来のローインピーダンス専用ではなく、2Ω～60Ω と幅広い適合性を持っています。

http://www.ortofon.jp/news/pdf/ST7.pdf#search='%E3%82%AA%E3%83%AB%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%B3+ST7'

なお、販売店などのサイトでは、「トランス巻線をサンドウィッチ巻構造とし、これにより高域特性を改善。パーマロイコアと、左右独立させたパーマロイ・シールドハウジングは引き続き採用、筐体は重量を増したしっかりしたものとなり、格段に仕様アップ。初めて MC トランスを導入する方を始め、あらゆる層にお奨め出来る万能 MC トランス」というふれ込みの記載があります。

試聴は、Ortofon SPU Royal N で行い、対照のトランスとしては Byer と Northern Electric のトランスを使用します。

３．条件変更後の現状確認の試聴結果

Ortofon ST-7 は Byer と Northern Electric の中間のような印象で、Byer の艶っぽさと Northern Electric の切れ込みや肌理細やかさを兼ね備えたような印象で Ortofon STA-6600L よりは最近の製品らしくワイドレンジの音を聴かせてくれました。
つまるところ Ortofon ST-7、Byer、Northern Electric は三者三様でカートリッジによって微調整ができると考えられます。

４．まとめ

比較試聴には Ortofon ST-7 も加えることとし、適合カートリッジインピーダンスが広いことから、Benz Micro ACE-M の試聴にも使用してみたいと思っています。

以上